報告様式　２－１　　令和２年度　長与町学校評価（共通の評価項目）報告書

長与町立長与第二中学校

１　共通項目

基本目標　　心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

| 目標 | 取　組　の　内　容 | 評価<br>(最高 4) | 分　析　及　び　改　善　策<br>(○…成果、●…課題) |
|---|---|---|---|
| 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現 | １　豊かな心の育成<br>①いじめ、不登校への適切な対応（必須） | 3.5<br>【妥当】 | ○生徒によるいじめ対策特別委員会では、学級内の生徒の「いいとこさがし（OnlyOne ノート）」を行うなど、活動の日常化を図った。<br>●不登校、不登校傾向の生徒は増加傾向にある。家庭やスクール・カウンセラー、スクール・ソーシャル・ワーカー等の外部機関との連携を深める。 |
| | ②道徳教育の充実を図るとともに、友愛の精神を尊重し、思いやりの心を育む | 3.7<br>【妥当】 | ○学級担任だけでなく副担任も輪番で道徳科の授業指導を行った。 |
| | ③学校行事や部活動を通して、礼節と協調性を養い、たくましい心を育てる | 3.8<br>【妥当】 | ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの学校行事や部活動が制限を受けた。感染拡大防止策を講じ、教育課程に影響のないように努める。<br>○制限を受けつつも、創立４０周年二中祭や体育発表会をはじめとした学校行事や部活動で生徒は主体的に活動に取り組んだ。 |
| | ２　基礎学力の充実<br>①「めあて、まとめ（振り返り）」の完全実施とわかる授業の実践 | 3.4<br>【妥当】 | ○「めあて」については、どの授業でも確実に提示されるようになった。<br>●生徒から「めあて」を引き出すなど、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善にさらに力を入れる必要がある。次年度の研究発表会を見据え、模擬授業や研究授業などの研究を更に活性化する。 |
| | ②家庭学習の習慣化 | 3.6<br>【妥当】 | ○ながよ検定に向けては、家庭と連携するとともに、教科の枠を超えて学年職員が協力して個別の補充学習に取り組み、９０％を超える合格率を達成できた。 |
| | ３　健康安全教育の推進<br>①環境美化と整理整頓の指導徹底 | 3.5<br>【妥当】 | ○朝の玄関清掃や「心トレ（清掃時間）」、総合的な学習の時間のゴミ分別研修など、生徒の環境美化の意識を高めるための様々な取組を行った。 |
| | ②アレルギーへの共通理解と対応の徹底 | 3.9<br>【妥当】 | ○給食担当、学級担任、管理職などの複数の目で給食における事故の未然防止に努めた。 |
| | ③防災や危機意識の涵養と自己防衛意識の指導　（メディア安全を含む） | 3.4<br>【妥当】 | ○新型コロナウイルス感染対策や登下校の指導、メディア安全教室を行うなど、生徒自身の危機管理意識を高める取組を行った。<br>●次年度の「GIGA スクール構想（生徒一人一台のタブレットPC端末）」に向けて、情報モラル等の指導をさらに行っていく必要がある。 |
| | ４　特別支援教育の充実<br>①一人ひとりのニーズに応じた支援（必須） | 3.5<br>【妥当】 | ○全ての授業時間、給食時間に学習室（別室）の担当を割り当て、全職員で指導・支援に当たった。 |
| | ②生徒の実態把握と対応策の策定及び共通理解と共通実践の充実 | 3.4<br>【妥当】 | ○定期的に生徒指導委員会や特別支援教育部会を開き、配慮を要する生徒に関する情報を全職員で共有した。<br>●担任など一部の職員の負担を軽減するべく、職員間の報告・連絡・相談を徹底する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | 5　国際化への対応<br>①人権意識の高揚と豊かな人間関係づくり<br><br>②日本の文化や地域の理解（各教科）<br><br>③グローバルな視野を持たせる取組（総合的な学習の時間） | <br>3.5<br>【妥当】<br><br>3.3<br>【妥当】<br>3.2<br>【妥当】 | <br>○人権集会では、新型コロナウイルス感染拡大に伴ういじめや差別の防止、LGBT に関しての学習を行った。<br>●各教科における地域学習は十分とはいえない。今後も地域人材や地域教材の活用場面を模索する。<br>●コロナ禍で外部との交流が制限される中、唯一３年生が国際交流協会所属の外国人との交流の機会をもった。今後は、ICT 機器の活用などをとおしてグローバルな見方・考え方を育む。 |
| | 6　教育環境の整備<br>①安全点検の実施と学習環境整備の徹底（ＰＴＡ、学校支援ボランティアの活動含む）<br><br>②通信やＨＰなど学習成果の発信と共有<br><br>③労働環境の適正化と働き甲斐のある職場づくり | <br>3.3<br>【妥当】<br><br>3.3<br>【妥当】<br><br>3.4<br>【妥当】 | <br>○職員の日常的な安全点検の意識を高めるとともに、臨時休業中や長期休業中などに職員有志で壁塗り等の環境整備を行った。<br>●コロナ禍の下、PTA や学校支援ボランティア「もちの木の会」の活動も制限された。<br>○従来の電話連絡網を廃し、臨時休業中の課題提示や緊急連絡の手段として、学校HP と電子メールシステムの運用を定着させた。<br>●学校だより、学年通信は継続的に発行できているが、学級通信の発行回数は多くはない。コロナ禍で学校の様子が家庭に伝わりにくいため、学級通信の発行やHP の更新を増やしていく必要がある。<br>●部活動ガイドラインに基づく部活動週休２日が定着し、月８０時間以上の超過勤務の職員はほぼいなくなった。今後は、月４５時間超の縮減に向けて、尚一層の業務の効率化が求められる。 |
| | 7　教職員の資質向上<br>①指導力の向上（必須）<br><br>②教科研究と校内研修の充実 | <br>3.5<br>【妥当】<br><br>3.6<br>【妥当】 | <br>○夏季休業中の全教員による模擬授業やながよ検定に向けての補充学習など、同僚性・協働性による教科の枠を超えた取組が行われた。<br>○感染拡大防止のため、グループ学習が制約を受けたが、深い学びの実現のために各教科の特性に応じた授業改善が進められた。<br>●次年度の研究発表会に向けて、PDCA サイクルに基づき計画的、組織的に研究のまとめを行う。 |

報告様式　２－２

２　自己評価のまとめ（成果・課題等）

（１）成果

①授業における「めあて」の提示については、どの授業でも確実に行われるようになった。ながよ検定の実施前には、休み時間や放課後の時間を惜しむことなく学年所属職員が協力して個別に補充学習を実施した。このことは、ながよ検定合格率９０％以上を達成し、基礎・基本の定着、家庭学習の習慣化につながった

②道徳授業の輪番制、夏期休業中の模擬授業、学習室の割当など、学年所属職員集団を中心とした横のつながりで同僚性・協働性が発揮される場面が多くあった。

③新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から多くの教育活動が制限されたが、生徒たちは、創立４０周年二中祭や体育発表会などの学校行事で学習成果を主体的に披露した。教員も、「対話的な学び」を実現するための授業改善に積極的に取り組んだ。

④感染拡大防止についての生徒への指導によって、職員の危機管理能力の向上だけでなく、生徒の安全に対する意識の高揚やいじめ・差別を許さない姿勢を育むことにつながった。

（２）課題等

①新学習指導要領の完全実施、次年度の研究発表会を見据え、校内研究を更に活性化していく必要がある。生徒の言葉から「めあて」を引き出し、「主体的な学び」につなげたり、「深い学び」であったかを「まとめ（振り返り）」で確認したりするなどの授業改善が求められる。

②不登校、不登校傾向の生徒は依然として多い状況にある。不登校ゼロを目指し、家庭との連携はもちろんのこと、スクール・カウンセラーやスクール・ソーシャル・ワーカー、こども政策課等の外部機関と連携、学習室や通級指導教室等の校内の居場所づくりに力を入れる必要がある。また、他者を思いやり、人との関係をより良く築く力を醸成していくために、道徳教育の充実も不可欠である。

③コロナ禍の下、授業や学校行事等、様々な制限があり、学校の教育活動は今まで以上に見えづらくなった。地域の核となるべき学校として、通信や HP を今まで以上に活用していかなければならない。

④部活動ガイドラインに基づく平日１日、土日のいずれか１日の休養日が定着し、月８０時間以上の超過勤務の職員はほぼいなくなった。今後は、月４５時間超の縮減を目標に、尚一層の業務の効率化、勤務時間の自己管理が求められる。

３　学校関係者評価（書面表決による）

○学校による自己評価（数値、分析及び改善策）を妥当と認める。（学校評議員４名全員）

○コロナ禍にあって、感染拡大防止等の観点から、これまでにない学校運営、教育指導を求められる中、教職員の皆様には、できうる限りの努力をしてくださっており、誠に感謝しております。今後、状況が変わるにつれ、様々な対応が必要となることと思いますが、子どもたちのためよろしくし御指導願います。

○感染と風評被害に恐れ、これまでの日常が全て奪われてしまった不自由な一年となりました。その中でもどうにか子どもたちに少しでも仲間との活動ができる行事をしようと奮闘された先生方の姿が目に浮かびます。いつになればまた〝日常〟に戻れるかはわかりませんが、３年生それぞれが自分の進みたい道へ行けますように祈っております。

○コロナ禍という、今までになかった日々の中、本当にいろいろ対応を考える一年だったと思います。答えがどれなのか…、確実なことが不明で、アンケートの中にはそうした内容が出ているのは当然だったと思います。ただ、アンケートの中にもありましたが、何かと最後だからと３年生中心になっていて、他の学年の保護者の方が残念に思っていることは、少しやり方を考えられた方がよかったと思います。直接見てはいないのでよくわからないところですが、全ての学年で、後日でよいので行事等の映像を見られる機会があれば、学校での様子がわかってよいと思います。

○誰も経験したことのないコロナ禍の中、先生方も大変な御苦労のことと思います。こういう事態になった以上、とにかく子どもたちも先生方も感染防止と健康に最大限留意していただいて、臨機応変に対応していただければと思います。

4　対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

○１・２年生保護者の参観することができなかった二中祭（合唱コンクール）については、学年 PTA 等の中で映像を見られる機会を設ける。また、学校での生徒の様子を家庭に伝えるため、学級通信を月１回以上発行する。

報告様式　３

# いじめ問題に関する評価の実施状況

| 評　価　項　目 | 評価観点等の内容 | 評価 | 分析及び改善策 |
|---|---|---|---|
| １　日頃の児童生徒理解 | ・日常的に生徒の言動を観察し、生徒が示す小さな変化や危険信号を見逃さないように努めているか。<br>・生徒が安心・安全に学校生活を送ることができているか。 | 3.7 | ○感染防止のためのマスク着用によって生徒の表情がわかりにくいところはあるが、学級担任を中心に職員全体で、生徒の小さな変化にも気付くよう日常的な観察に心掛けている。 |
| ２　未然防止や早期発見 | ・定期的にアンケートを実施したり、日々の観察で問題の把握に努めたりしているか。<br>・ささいな兆候であってもいじめとの疑いを持って早期発見に努めているか。 | 3.9 | ○日常的な観察に加え、毎月の生活アンケートを確実に実施し、必要に応じて個別面談を行っている。 |
| ３　いじめへの迅速適切な対応 | ・いじめの通報・発見があった際に、速やかに関係教職員に連絡し、情報を共有、対応しているか。<br>・生活アンケートや個人面談で正確な情報収集を行い、生徒の寄り添う指導を行っているか。 | 3.9 | ○ささいなことであっても生徒に関する情報を職員間で共有するとともに、必要に応じて保護者に連絡をとるなど、家庭との連携に努めている。 |
| ４　組織的な取組 | ・いじめ対策委員会を中心として、機動的、組織的に対応する体制が整備されているか。<br>・定期的なアンケート結果や欠席日数等を各種部会で検証し、対応しているか。 | 3.6 | ○運営委員会、生徒指導委員会等で配慮を要する生徒に関する情報を共有している。<br>○必要に応じて、SC、SSW、適応指導教室等の関係機関との連携を深める。 |
| ５　方針等の共有（保護者・地域） | ・いじめ防止基本方針に基づく取組や具体的な年間計画を明確にしているか。<br>・いじめ防止基本方針や対策、いじめ発生時の対応の在り方について、保護者、地域と共通理解を図っているか。 | 3.3 | ○学校 HP でいじめ防止基本方針を公開している。<br>○例年、PTA総会の中で、いじめ防止基本方針について紹介しているが、本年度は感染防止のため実施できなかった。次年度は保護者に直接説明する場をもつ。 |
| ６　その他<br>生徒会委員会活動の取組 | ・いじめ対策特別委員会の定期的な実施と活動の活性化が図られているか。<br>・いじめ対策特別委員会の活動成果として人権集会を位置付け、更なる生徒の人権意識の高揚を図っているか。 | 3.7 | ○生徒によるいじめ対策特別委員会の活動を日常化するため、「OnlyOne ノート（いいとこさがし）」の取組を行い、支持的風土の醸成につなげた。 |